
闇に生きる鉄の掟

ダリア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇に生きる鉄の掟

【Nコード】

N2047B

【作者名】

ダリア

【あらすじ】

オレはこれから起こる未来を想像すらできなかった。確かに悪い事はいろいろやってきた身だ。それ相応に生きて、適当な死に方をする、とだけは思っていた。それだけに、こんなオレがヤクザになるとは思わなかったのだ。見る人からすれば、予想をしていたかもしれない、それでもオレはそんな考えはまったくなかったのだ。この先、オレはどうなるのだろうか……。

第一話：闇への道（前書き）

えー、かなり流血系になると思います（汗）、そっちの方面が嫌いな方は……どうなんでしょう（滝汗）。それでは、至らない所も多々ありますが、よろしくお願いいたします。

第一話：闇への道

今オレにあるとすればそれは闇。

オレは17歳にして、悪い事、人を殺す事以外はすべてやったつもりだ。

こんなオレだ、とうに親からは勘当されている。そうして、オレは街を徘徊している。

毎日、何か金になるものはないか、それが犯罪に繋がるものでも、構いはしない。それを探していた、そんな時だ。オレは殺しの場面を目撃した。

紅いスーツを着た男が、壁に寄りかかって座り込んでいる男を殺っていた。

ひとめで紅いスーツを着た男がヤクザとわかる。

一方、座っている男は頭に1センチほどの風穴をあけ、そこから赤い血があふれ出ていた。おそらくめ事があり、殺られたのだろう。オレはその目の前で起こっている出来事に魅入っていた。

初めての光景。

人を傷つけて血は見たことはあるが、あそまで鉄くさい臭いを放ちながら流れ出る大量の血は見たことはなかったからだ。

その光景を見て、自分でもゾクゾクするのがわかった。

鳥肌が立ち、冷や汗が全身から吹き出す。身を乗り出してその場を凝視している自分がそこにいた。

それこそ、身の周りの事が見えなくなるくらい凝視していた。それもあり、後ろから近付いてくる人影にも気付くはずもなかった。ゴッ！

「っ!？」

オレは頭を硬い物で殴りつけられた。

それと同時に頭から赤い鮮血が飛び散り、意識が朦朧とし始めた。

第一話：闇への道（後書き）

どうも初めて、ダリアと申します。初めて小説を書かせていただきました。これから結構流血系になるとは思いますが（笑）、よろしかったら、次の話もお読みくださいませ。この度はこの「闇に生きる鉄の掟」をよろしくお願いいたします。

第二話：冷たい慈悲

頭を殴られ意識が遠のいていくなか、殴りつけた奴がオレの胸ぐらを掴んで紅いスーツの男の前に突き出した。

オレは意識が浅いため、その場に倒れ込んだ。

「コイツ、見てやしたぜ」

「……」

紅いスーツの男は冷たい目線で、這いつくばっているオレを見下す。そして、無言のまま懷に手をやると、銃を取り出した。

なんの躊躇もなくその銃をオレに向けると、紅いスーツの男はオレに話しかけてきた。

「年はいくつだ？」

「……と…し？」

「そうだ、そのなりではまだ若いだろう」

理解することができない。頭を強打されたためだろう、なんとなくはわかるが、応えが出てこない。

「……」

「まあいい、17、8といったところだろう」

オレは無言で頷いた。

「そうか、まだ若いのに残念だ。最後に言いたいことはあるかね？」
さすがに意識も回復し、視界や思考が鮮明になってきた。

「オレがいなくても、この世は変わりはない、そうだろう？」

「そうだな、君の死はこの世界には何の影響もない」

わかっているさ、オレが死んでもこの世界は輪廻する。

それは誰が死んだところで変わらないことも知っている。
だからこそ人は名を残そうと努力する。

だが、それもただ虚しく

「努力しただけ」

になってしまう。

オレはそんな世の中にうんざりしていた。

「だよな、ならここで死んでもそう変わりはないか」

オレは死を覚悟する。

覚悟、と言えば格好はつくかもしれないが、オレはただ諦めただけだった。

「うむ、終わりかな？では出来るだけ楽にしてあげよう、せめてもの慈悲だ」

そして銃口がオレに向けられた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2047b/>

闇に生きる鉄の掟

2010年12月13日19時44分発行